

楽々森様神社遺蹟

平面図		表示内容
住所	岡山市北区下高田1189付近	 <p>岡山歴史教育 ー 土土の歴史を学ぶ ー</p> <h2>楽々森様神社遺蹟</h2> <p>かつて下高田菅川の豪族であった楽々森氏は、徳川幕府の治世に際し、西條藩に参勤交代し、藩政の発展に貢献し、藩政の発展に貢献したとされています。これが楽々森氏伝説の由縁です。</p> <p>楽々森氏の長女である眞由姫は当地に生誕しました。後に吉備津彦命に見初められ妃となりました。</p> <p>楽々森氏は楽々森神子として当地区民全体で祀られていましたが、大正10年(1920)に該神社に合祀され、現在に至ります。</p> <p><small>(資料提供：下高田町民会)</small></p>
地番(公図)	岡山市北区下高田2215	
 <p>凡例 ❌ : 設置位置</p> <p>PASCO Increment P</p> <p>30m</p>		

角藤 定憲

平面図		表示内容
住所	岡山市北区御津野々口1373付近	 <p>岡山歴史館中「一人の歴史を知る」</p> <h2>角藤定憲</h2> <p>定憲は慶応元年（1865）に小山村（現・御津野々口）で上級の長男として生まれました。21歳の時、大坂で東洋新聞の記者になったものの、当時は自由民権運動が盛んな時代であったことから6割も減した月俸と想の普及を思い付き、明治21年（1888）、同志と共に「大日本急進倶楽部」とおする我が国戦術の壮士芝居演習を設立しました。</p> <p>当初は技芸が播かったものの、当時主眼であった旧劇（歌舞伎）には見られぬ新しいのが好奇心の強い大坂の人々を驚かせ、大評判となったことが士気昂揚の契機を遂げ、現在の新演劇の一つの源流となりました。</p> <p>真地狂者『藝壇三哲人評』では、「面のまづい影のまづい癖のある男、思慮もろひまになつたから山から出て浪者に成つたが、併し士気昂揚の元勳として名成程」とその感時の良い演技が評価されています。</p> <p>（角藤定憲、御津野々口） 岡山府</p>
地番（公図）	—（道路）	
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		

桑田公園（大藤公園）のラジオ塔

平面図		表示内容
住所	岡山市北区桑田町10-8	 <p>岡山歴史散歩 —まちの歴史を知る—</p> <p>桑田公園(大藤公園)のラジオ塔</p> <p>灯籠のようなこの塔は、昭和14年（1939）に建てられた岡山で最初のラジオ塔と書われています。前身に氷鉢（2019年に破壊撤去）、向かって右に土地区画整理事業の竣工碑を伴うのが特徴です。ラジオ塔とは、昭和初期にラジオ放送普及のため全国各地に設置された街頭ラジオ用の設置です。実際にこのラジオ塔もラジオ体操などに使われていました。</p> <p>元々はここから約300メートル北東にかけて存在した大藤公園にありましたが、戦後、大藤公園が廃されたため桑田公園に移設されました。竣工碑と共に、戦火をくぐりぬけた、当地の近代化を伝える貴重な遺産です。</p> <p>（資料提供：桑田町立博物館 岡山県）</p>
地番(公図)	岡山市東島田町2丁目16番2	
 <p>凡例  :設置位置</p>		

日蓮宗黄門山瑞雲寺

平面図		表示内容
住所	岡山市北区番町2丁目6-22	
地番(公図)	岡山市北区番町2丁目51番	

式内社 天津神社

平面図		表示内容
住所	岡山市北区津島福居2丁目14-19付近	
地番(公図)	岡山市津島福居2丁目2238番	
		

粟井大塚古墳群

平面図		表示内容
住所	岡山市北区粟井2549-1付近	 <p>岡山歴史散歩 ーよしの歴史を知らー</p> <p>あさひ ぎょう ちゅう せいの ちゅう ぎん ぐん</p> <h2>粟井大塚古墳群</h2> <p>粟井大塚古墳群は、当地周辺の山麓に分布する14基の古墳を指します。いずれも古墳時代後期に造られたとされています。</p> <p>中でも1号墳と2号墳が大きく、その直径はいずれも20mほどです。両墳の石室には築造時期に墓が見られることから、2世代にわたり大きな古墳を築く勢力が保たれていたと考えられています。また、両古墳群は急傾斜の山に築造されていることから、農業生産ではなく、鉄生業を生業とする人の古墳であったと推測されています。</p> <p>〔情報提供：岡山県史跡・文化財調査課〕 2017年</p>
地番(公図)	岡山市北区粟井字大塚2522番1	
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		

坪田譲治 金川中学の思い出

平面図		表示内容
住所	岡山市北区御津金川940岡山県立岡山御津高校正門前	
地番(公図)	—(道路)	
 <p>凡例  :設置位置</p>		

岡山県立金川 一人の歴史をたどる

坪田譲治 金川中学の思い出



日本三大児童文学者の一人で、岡山市名譽市民である坪田譲治は、明治23年(1890)3月3日、非特級橋本村(現岡山市北区高市4町)で生まれました。石井小学校を卒業後、養正学校(現岡山県立御津南校)に入學しました。

譲治が2年生の時、養正学校が新立金川中学となり、この地に移転しました。金川中学では、いろいろな友達や教師に恵まれて視野が広がりました。

『浪々木君と云う同級生がいる村がありました。彼は給のうまい人でした。彼石炭の古くに、久山君と云う同級生がいて、新聞におとなしい人で、笑顔をのびた人です。』(岡山県立金川南校創立90周年記念『100年』より)



譲治は、金川中学を卒業後、早稲田大学に入學します。45才の時、「嵐の中の子供」で作家として認められ、以後も多くの作品を著しました。昭和57年(1982)7月7日、92歳で亡くなりました。

発行所：(財)岡山県立金川南校
岡山県

坪田譲治 養忠学校に入学

平面図		表示内容
住所	岡山市北区丸の内2丁目6-30	 <p>岡山歴史教育 — まちの歴史を伝える —</p> <p>岡山県立養忠学校</p> <p>小説家・児童文学者で、岡山市名誉市民である坪田譲治は、明治23年（1890）3月3日、香野郡船岡村（現岡山市北区船岡本町）で生まれました。石井小学校を卒業後、養忠学校に入学しました。</p> <p>前年度にあった私立岡山普通予備学校が現在の県立図書館の敷地に移転され、養忠学校となりました。ここで譲治は1年肄学しました。譲治が2年生の時、御津郡金田村に移転され、私立重信小学校と校名が変更されました。</p> <p>譲治は、金田中子を卒業後、早稲田大学に入学します。46才の時、『嵐の中の子供』で作家として広く世に認められ、以降多くの作品を執筆しました。昭和57年（1982）7月7日、92歳で亡くなりました。</p> <p><small>（提供団体：岡山県立図書館） （岡山県）</small></p>
地番（公図）	岡山市北区丸の内2丁目6番101	
 <p>凡例 ✕ : 設置位置 ★ : 県立図書館</p>		

藪ヶ鼻の一里塚跡

平面図		表示内容
住所	岡山市北区御津金川1408-1付近	 <p>岡山歴史散歩 —まちの歴史を知る—</p> <p>やぶがばな いちりつかあと</p> <h2>藪ヶ鼻の一里塚跡</h2>  <p>江戸時代の街道には、一里（約4km）ごとに土をもって塚をつくり、その上にエノキやマツなどを植えて里程の目印や休憩の場としていました。</p> <p>当時、このあたりには、岡山下を発し、辛香峠を越えて津山城下に入る道（いわゆる「津山往来」）があり、この看板より50mほど東に進んだ場所には「藪ヶ鼻の一里塚」があったとされています。津山往来は、総里程十四里（現在の約55km）に及び、備前と美作を結ぶ重要な道の一つとされています。途中には、金川（白直氏）、建部（池田氏）に陣屋が置かれ岡山藩にとっても政治上重要な道でした。</p> <p>御津地域には3ヶ所の一里塚が確認されています。金川と當谷の境にあった「藪ヶ鼻の一里塚」は規模が比較的大きかったと言われ、おかめ茶屋という茶屋とともに絵図が残されています。</p> <p><small>（看板提案：御津文化協会） 岡山市</small></p>
地番（公図）	岡山市北区御津宇垣字笹山1227番7	
 <p>凡例</p> <p>❌ : 設置位置</p>		

杉尾の山神社

平面図		表示内容
住所	岡山市北区吉備津33-1付近	 <p>岡山歴史散歩 - まちの歴史を知る -</p> <h2>杉尾の山神社</h2> <p>本社は杉山のふもとに位置し、棟札の記録から創始は享保5年(1720)頃と考えられています。記録によれば、小規模ながらも神社としての形式を備えており、現在は失われたものもありますが、本殿までの道中には自然石の鳥居と常夜灯2基、拝殿、御神木である樹齢500年を超える「まきの大木」や「もろの大木」等があったとされています。</p> <p>板倉村の三社宮の一つとして人々の尊敬を集めており、板倉の子どもは七五三の時は必ずお参りをしたそうです。また板倉の里人は、山仕事や葎狩り等の際には杉尾の山への入り口である本社の前で必ず参拝し、上り下りしていました。</p> <p>(情報提供: 岡山学区連合町内会) 岡山市</p>
地番 (公図)	岡山市北区吉備津字杉尾37番291	
 <p>凡例</p> <p>❌ : 設置位置</p>		

坪田讓治の生家跡地

平面図		表示内容
住所	岡山市北区島田本町2丁目7-43付近	 <p>岡山歴史散歩 一まちの歴史を知る一</p> <p>つばたじょうじ せい か ち 坪田讓治の生家跡地</p>  <p>1890年 3月3日 岡山県 岡山市 北区 島田本町2丁目7番43号</p>  <p>日本三大児童文学作家の一人である岡山市名譽市民である坪田讓治は、明治23年（1890）3月3日、ここ御野御石井村大字島田（現岡山市北区島田本町）で生まれました。讓治の作品には生まれ育った故郷岡山が舞台となっている小説・童話が多く、生家についてもしばしば記述されています。</p> <p>島田の中央あたりに坪田家本家があり、その分家にあたる讓治生家は「前新家」と呼ばれていましたが、昭和62年（1987）に取り壊されました。</p> <p>下写真は讓治が住んでいたとされる昭和8年（1933）頃の生家模型で、讓治の文学作品や古写真等の調査結果を基に製作されました。</p> <p>参考文献：山根 知子、坪田讓治 作品の舞台——讓治生家—— （著作権者：坪田讓治の生家への道と童話を生んだ能登川を整備する会） 岡山市</p>
地番（公図）	岡山市北区島田本町二丁目28番1	
 <p>凡例 ❌ : 設置位置</p>		

旧大工町

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区東中央町5-7	
 <p>凡例 ❌ : 設置位置</p>		

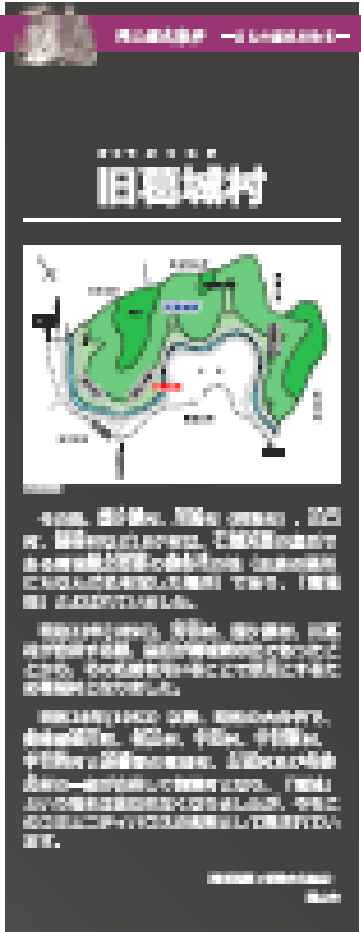

甚九郎稻荷神社と天神社

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区天神町9-39	 <p>The information card displays the title '甚九郎稲荷神社と天神社' at the top. Below the title is a photograph of the shrine grounds with a red 'X' marker indicating the specific location. The card contains several paragraphs of text in Japanese, providing details about the shrine's history and significance. At the bottom right of the card, there is a small logo and the text '© 2018 岡山市北区'.</p>
 <p>The map shows the shrine's location in a residential area of Aomori City. A red 'X' marks the shrine's position between 'オリエント美術館' (Orient Museum) to the north and '天神局' (Tenjin Station) to the south. Other nearby landmarks include '税務署' (Tax Office) to the west, '石関町' (Ishikawa-cho) to the east, and 'イクセル' (Excel) to the southeast. A scale bar indicates 30 meters. A legend in the bottom left corner identifies the red 'X' as the '設置位置' (Installation Location).</p>		

伊木家荒手屋敷の庭木

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区西古松84-1付近	
		

旧葛城村

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区御津国ヶ原374-1	
		

瀧善三郎正信

設置位置

表示内容

所在地

岡山市北区御津金川602



石坂桑龜墓所

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区建部町建部上66	
		

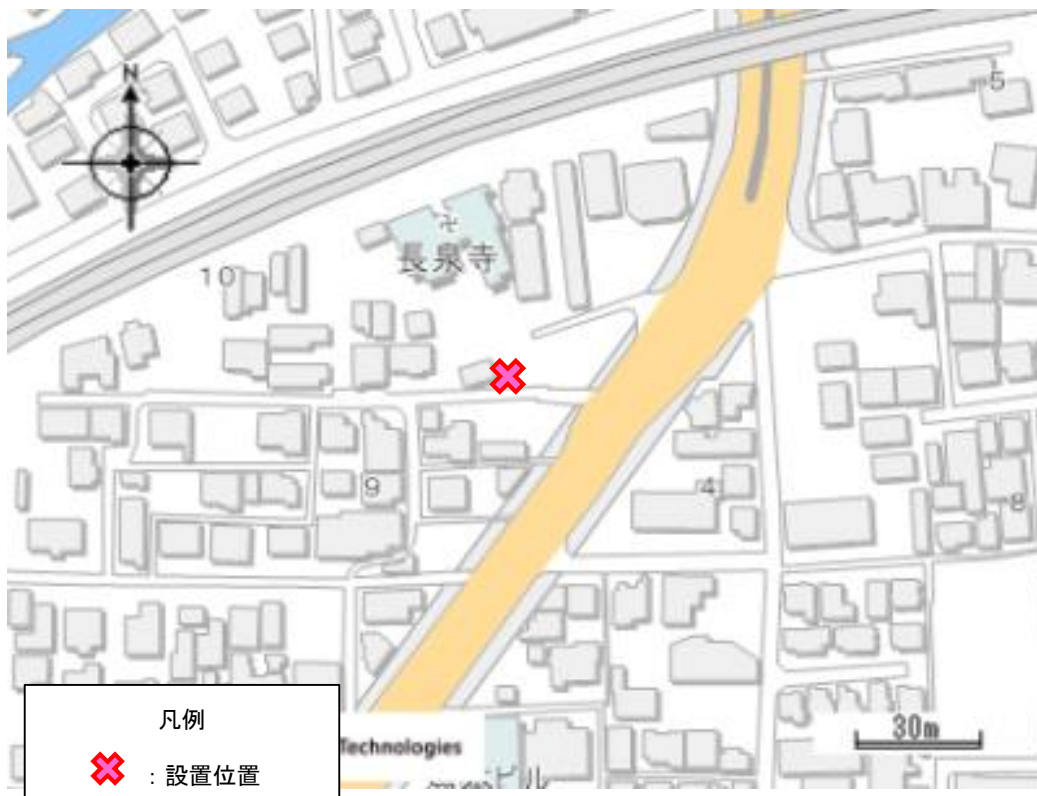
御野郡南方村の薬園

設置位置

表示内容

所在地

岡山市北区南方三丁目10-40



坂崎出羽守供養塔

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区白石482番	
		

足守川修堤記念碑

設置位置

表示内容

所在地

岡山市北区撫川1243-2



凡例

✕ : 設置位置



中田上ノ町魁組の神楽・獅子舞

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区建部町中田38	
 <p>凡例 X : 設置位置</p>		<p>岡山県立歴史館 岡山県立歴史館</p> <p>中田上ノ町魁組の神楽・獅子舞</p> <p>寛永9年（1632）、奥州藩から岡山藩へにより岡山藩に入った武士たちは、もとの家紋を岡山藩内の領主の地に改題して家紋を改題しました。その一つ、家紋は岡山藩領主への敬意として、中田の地に成行廻り1万4千石を奉り、旗本が移入られました。そして家紋改題と元の家紋に替く同様の旗に津山社を祀り入れ、近所の商人や職人を招き寄せ、慶安3年（1650）に建部町が成立されました。</p> <p>これを機に、建部町のうち上ノ町では天神宮へ獅子舞を奉納しました。これが神楽（獅子舞）の始まりとされており、近所で真っ先に開始のことから「魁組神楽」とも言われています。当時から使われてきたという獅子舞は、近所で使われている近年の獅子舞より色が良く、独特の特色があります。</p> <p>神楽（獅子舞）は、夜や火祭、墓の廻りにあわせて舞う岡山県岡山市北区建部町中田38の上ノ町の、獅子と舞い廻っています。</p>

多自枯鴨神社と神輿・棒遣い

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区建部町田地子542	 <p>岡山歴史散歩 ーまわりの歴史を知ろうー</p> <p>多自枯鴨神社と神輿・棒遣い</p> <p>多自枯鴨神社は、壬辰神代萬葉記に記されています。延喜式(西暦985年編纂)にも神輿の記載があることからそれ以前から続くと考えられ、一説では昇明5年(659)に創建されたと言われています。また、田地子の地名は、多自枯鴨神社と多自枯鴨町南式外神社が鎮座していたことが由来とされています。</p> <p>当神社の神輿は、文化10年(1813)に、境内の延喜寺三尊像等を平削げた市橋大工により製作されました。三尊像に類似した和上の木箱や輪部の彫刻等も精巧で、平成24年(2012)に岡山市有形民俗文化財に指定されています。</p> <p>また、当神社には祝詞からきたと言われていた「棒遣い」が伝承されています。棒遣いは、天狗頭と鬼頭を飾った若者が古式に沿った装束をまとい六尺の棒の端を打ち合う攻防の型で、秋の大祭では神輿神等の置置や乗置組を追い潰める役割を持ちます。他の神社に伝わる棒遣いは二人一組で打ち合うのに対し、田地子の棒遣いには四本棒という四人一組で打ち合う特殊な型が特徴となっています。</p> <p>岡山市 観光局 岡山市観光課</p>
 <p>凡例</p> <p>✕ : 設置位置</p>		

鶴田城址

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区建部町鶴田96-3地先	
 <p>Map showing the location of Tsubota Castle site (鶴田城址) in Tsubota, Tsubota-cho, Kita-ku, Okayama City. The site is marked with a red 'X' on the map. The map includes a compass rose, a scale bar (100m), and labels for '城山 263', '建部町鶴田', '干鶴田局', and '出鶴田連絡'. A legend in the bottom left corner indicates that the red 'X' symbol represents the '設置位置' (Installation Location).</p>		 <p>Informational poster for Tsubota Castle site (鶴田城址). The poster features a photograph of the site and text describing its history. The text includes the title '鶴田城址' and a detailed description of the site's location and historical significance. The poster also mentions the date of the site's discovery and the date of the archaeological excavation.</p>

和田神社（珙和郷二の宮）

設置位置		表示内容
所在地	岡山市北区建部町和田南1643付近	
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		